

フジナミガイ *Hiatula boeddinghausi* (Lischke)

【選定理由】

本種は内湾から湾口部にかけての砂泥干潟から潮下帯に生息する。県内でも干潟という生息環境自体が護岸工事や埋め立てで著しく減少しているのが、本種の生息地、個体数とも著しく減少したと考えられる。本種は分布全域で生息場所が減少し (和田・他, 1996)、近年健全な個体群が保存されている場所は瀬戸内海の一部に限られている (山下, 2012)。三重県側の伊勢湾では、1980年代半ばまでは死殻が打ち上げられて採集される場所があったが、現在そのような場所は確認されていない。県内の伊勢湾や三河湾でも近年生貝はおろか、死殻さえ採集されていない。近似種で生息環境もよく似ているムラサキガイに回復傾向が認められているのとは対照的に、絶滅の可能性が非常に高い種であると評価された。



三重県津市(伊勢湾), 1982年10月5日, 木村昭一採集(打ち上げ死殻)

【形態】

殻長約 10 cm、殻は大型で楕円形。殻はやや厚く濃い紫色と薄い紫色のんだら模様。殻表は平滑で、褐色の厚い殻皮に覆われている。

【分布の概要】

【県内の分布】

近年生息が確認できない。大形種で殻は目立つが、死殻さえ全く採集されていない。

【世界及び国内の分布】

日本、朝鮮半島、国内では岩手県・男鹿半島～九州まで分布する (山下, 2012)。

【生息地の環境／生態的特性】

【選定理由】の項参照。

【現在の生息状況／減少の要因】

上述したような干潟の環境は破壊されているので、本種の生息場所、個体数とも減少したと考えられる。現在死殻も採集されず、危機的な生息状況である。絶滅した可能性も高い。

【保全上の留意点】

内湾の潮下帯の環境を保全する。干潟の保全や、内湾域の水質の富栄養化を防止することが不可欠である。

【引用文献】

和田恵次・西平守孝・風呂田利夫・野島哲・山西良平・西川輝昭・五島聖治・鈴木孝男・加藤真・島村賢正・福田宏, 1996. 日本の干潟海岸とそこに生息する底生動物の現状. WWF Japan Science Report 3, 182 pp.  
山下博由, 2012. フジナミガイ, p. 135. in : 日本ベントス学会 (編) 干潟の絶滅危惧動物図鑑 - 海岸ベントスのレッドデータブック, 285pp. 東海大学出版会, 秦野.

(木村昭一)